

# 行き場失う資源ごみ



## 中国輸入禁止で混乱拡大

### 不法投棄も、WTO議論

中国が1月、プラスチックごみなど資源ごみの輸入禁止に踏み切り、輸出元だった欧米や日本が受け入れ先探しに苦勞している。行き場を失ったごみが各国であふれ、東南アジアで不法投棄されるなど世界中で混乱が広がっている。

10月の世界貿易機関（WTO）の会合では「急な政策変更は世界の環境悪化につながる」との批判が出た。中国は「国民の健康に関わる」と引かず、打開策

#### 中国の資源ごみを巡る経過

- 2015年 ▶ 中国の資源ごみ輸入量が約4700万トンに達した
- 17年 ▶ 中国が世界貿易機関（WTO）に24品目の輸入禁止を通告。18年1月に輸入停止
- 18年 ▶ 米国や欧州連合（EU）、韓国などが禁止措置の説明が不十分だと中国を批判
- 10月 ▶ マレーシアで資源ごみの大量不法投棄が発覚

密輸されたプラスチックごみなど資源ごみを調べた警察官（2月、中国・南寧で）（共同）

が見えない。禁輸措置は中国の大国意識の表れでもある。

中国はかつて世界最大の資源ごみ輸入国で、ベトナムなどのプラスチックごみを輸入し化学原料などに再生してきた。資源ごみの輸入量は2015年、約4700万トンに達し「世界で再生利用されるプラスチックや古紙の半分は中国

が担っている」（米メディア）とされる。

しかし中国は昨年7月、WTOに「環境や人体に甚大な影響を与える」と24品目の輸入禁止を通告。今年1月に停止した。欧米メディアによると、各国のリサイクル業界は混乱に陥り、廃棄物処理施設に資源ごみがあふれる事態となった。

日本でも輸入禁止の影響が表面化。ごみの処理業者には依頼が殺到し、多くの業者で処理能力の限界に達している。神奈川県のごみ処理会社の関係者は「事業所や工場から出たごみで中間業者の倉庫が満杯だ」と

明かす。中間業者に処理を依頼されても、施設ごと

に処理できる分量が決まっており、受け入れを断る会社が多い。業界内では、規制緩和で処理施設の能力を高めて対応するしかないとの意見も出ているという。

米国や欧州連合（EU）はWTOに問題を提起。今年10月22日には韓国、カナダ、オーストラリアも加わり、禁止措置の説明が不十分だと中国を批判した。米国は「世界の資源ごみのリサイクルシステムで混乱が続けば、海洋ごみの増加に拍車がかかる」と指摘、日本も懸念を示した。

中国は資源ごみの輸入禁止措置を拡大する方針だ。

環境基準を満たさない施設で処理が横行、大気や水の汚染原因になっている上に「いつまでも先進国のごみ捨て場になるのは耐えがたい」と自尊心も高まっている。

欧米は資源ごみの新たな受け入れ先として、東南アジア諸国やインドへ輸出を増やそうともくろむ。しかし、10月にはマレーシアで大量の不法投棄が発覚した。中国に迫る形ではベトナムやマレーシアが資源ごみの輸入規制を強化、輸出先がさらに減る見通しだ。（ジュネーブ、東京共同）小林義久、一井源太郎